

患者さんと一緒に考えていきたい

病院での診療の目的は病気を治すことです。ただ実際は、医師側から治療方法について一方的に提示され、患者さんの側がなかなかベストな選択をできないこともあります。患者さんが詳しく話を聞きたくても、その場の雰囲気や質問を切り出せず、のちのち病気が治ったけれど後遺症が出たり生活の質が下がったり、ということも起こり得ます。

一方在宅では患者さんの病気そのものが慢性疾患であったり、難治性のものであることが多いため、病気の完治を期待するのはなかなか難しく、病気がとうまく共存しながら生活の質を保つことが大き

な目標になってきます。

その中で患者さんやご家族と在宅スタッフが話をしながら、治療やいかにしたら生活の質を保てるかを一緒に考えていく長所があります。病院と違い、治療方法について結論を出すまでも、特別な場合を除けば猶予があります。私も時間が許す限り病気のことや患者さんの生活のことなどいろんなことをお話ししていきたいです。

患者さんの病気の状況によっては専門的治療が必要で、在宅では難しい治療もあるかと思えます。そのような時にも、患者さんご本人やご家族の方が、どのような治療を望まれているかを常日頃から話していければと思っています。(田中・医師)



● 掲示板 ●

●名古屋ウィメンズマラソン

3月10日に開催された名古屋ウィメンズマラソンに、当院のソーシャルワーカー・久保が参加し、42.195キロを走り抜きました。彼女は昨年に引き続きの参加でしたが、今年は三つ葉の患者さんへの想いを込めて特製のたすき掛けを用意し、応援団もロゴ入り団扇を持っての参戦でした。

あいにくの雨も降りましたが、何人かの方には声もかけていただき、楽しく走ることができました。



三つ葉のスタッフ紹介

はじめまして！医療ソーシャルワーカーの加納です。初診のお問い合わせをいただいてから、医師が初めて患者さんのお宅にお伺いするまでのコーディネートが、私たちソーシャルワーカーの主な業務です。

患者さんにとっては、私たちが最初にお話させていただく三つ葉のスタッフとなることがほとんど。私たちを通して三つ葉の姿勢や思いを感じていただき、安心して初診の日を迎えていただけるよう、日々準備を進めています。無事に初診を迎え、「これで安心して家で過ごせる！」という患者さんの思いに触れることが、私たちの大きな喜びです。密なお付き合いは初診までではありませんが、もちろんその後も、よろずお気軽にご相談ください。お待ちしております！



「三つ葉しんぶん」は患者さん・ご家族と、三つ葉医師・スタッフの双方向通信です。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

今年2月から3月にかけてお願いした患者さん満足度調査では、167人の方々からご返信をいただきました。三つ葉の医療に対するご意見・ご要望とともに、たくさんの感謝のお言葉やスタッフへのねぎらいのお言葉もいただきました。本当にありがとうございました。

患者さんがどんなときに「安心」されるのか、在宅での生活に何を求めているのか、ということを変更して読ませていただき、もっと質を上げていきたいとスタッフ一同、気持ちを新たにしました。

アンケートおよび「三つ葉しんぶん」の読者はがきでいただいたご意見を、ほんの一部ですがご紹介します。

在宅医学会に参加してきました。

全国で在宅医療に従事する人たちが集い、研究・学習・交流などを行う日本在宅医学会大会が、3月30～31日に愛媛県松山市で開催されました。今年は「生き方に向き合う在宅医療～高齢社会から多死社会へ」というテーマで、当院からも、医師・ソーシャルワーカー・診療サポートスタッフ総勢9名が参加しました。それぞれの職種の視点から、勉強会に出たり、他のクリニックの良い点を学ぶなど、見識を深めることができました。



声

患者さんにご家族からのお便り



患者の信念や趣味も知ってほしい

患者は症状が進んでから三つ葉の先生方と出合います。病歴は紹介状でご存知ですが、患者の人間性を識っていただくために、「信念とか趣味」などを把握していただくと、訪問診療時の話しかけに役立つのではないのでしょうか。先生方は患者にとって最期の先生になられるわけですから、「心が通じる喜び」は本人のみならず、家族も大きな喜びとなります。



貴重なご意見をありがとうございます。患者さん一人おひとりが歩んでこられた人生をお聞きしながら、診療時の語らいに役立てていく方法を、いま考えて取り組んでいます。



前向きに生きていきたい

「桜梅桃李」の船木先生の記事「一人暮らしの最期」を読ませていただき、本当に心強く思いました。今後の人生の最期を、不安がよぎることもありますが、前向きに生きていくことが大切だと考えさせられました。



生きていく上での不安を、私たちが少しでも軽くできるようお手伝いできれば幸いです。



稲熊病院との連携について

以前「三つ葉しんぶん」で「病院と提携した」とありましたが、内容についてもう少し詳しく教えてください。



稲熊病院は、内科全般と小児科、神経内科、リハビリテーション科を持つ一般病院です。ベッド数は34で、その一部を、三つ葉の患者さんが入院加療を必要としたときに、優先的に利用できるように用意いただいています。

在宅で療養されている主に高齢の患者さんが肺炎を起こしたり、介護するご家族が疲れてしまったのにショートステイなどの施設では受け入れてもらえないときに、すぐに入院するというのは、意外に難しくなっているのが現状です。そのようなときに医療的な管理を受けながら、数日から数週間過ごすことができます。点滴や栄養管理、レントゲン・CTなどの検査、リハビリなども可能です。

また入院中も、当院医師・ソーシャルワーカーが、病院医師・病棟看護師と密に連携し、患者さんが在宅にスムーズに復帰できるようにカンファレンスを行うなどしています。

在宅患者さんの病状悪化時の緊急支援体制をしっかりと整え、安心を提供できるよう、今後も努力してまいります。

医療法人 三つ葉  
三つ葉在宅クリニック  
〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通 3-12  
御器所ステーションビル 3F  
TEL 052-858-3281 FAX 052-858-3282  
URL <http://www.mitsuba-clinic.jp>

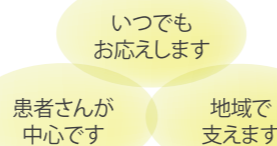


三つ葉しんぶん係メールアドレス  
tsubuyaki@mitsuba-clinic.jp

■ 私たちの理念

最高の在宅サービスを提供し  
安心して暮らせる社会を創造する

■ 安心を支えるために...



三つ葉在宅クリニック

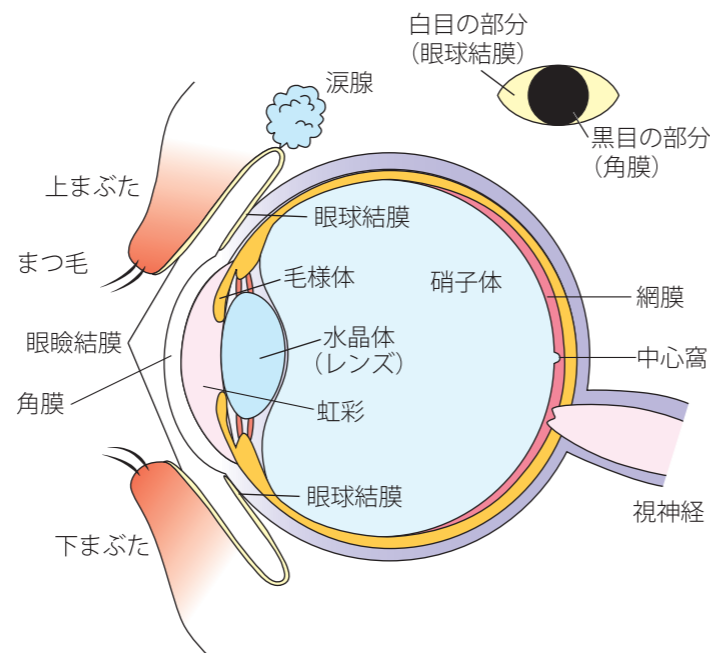
# 眼の病気

加齢とともに、眼はだんだん疲れてきて、モノが見にくくなったり、いろいろな病気にかかりやすくなります。眼の病気は、診断や治療に専門的な機器を要するものが多いので、基本的に眼科をご紹介しますが、在宅でも眼の表面（結膜や角膜）の感染症などはかかりつけ医として診療させていただいています。

今月は「眼」について少し勉強してみましょう。

## 眼のしくみ

眼の構造を図に示すと右のようになります。「モノが見える」しくみを簡単に言うと、「水晶体」というレンズを通して光が眼の中に入ってきて、その映像がカメラのフィルム部分に当たる「網膜」に映し出され、視神経を通じて脳に伝達されます。レンズの見え方を調整する（ピントを合わせる）のが「虹彩」や「毛様体」です。眼の表面（前眼部）は膜でおおわれ、黒目の部分を「角膜」、白目の部分を「結膜」（眼球結膜）といいます。結膜はまぶたの内側（眼瞼結膜）につながっています。



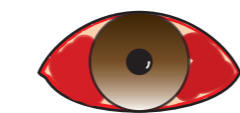
在宅で診療可能な病気です。

## よくある眼の病気

**●結膜炎**  
結膜の感染症です。白目の部分の充血、かゆみ、目やに、まぶたの腫れなどの症状が出ます。原因は皮膚の感染症と同様、ウイルス、細菌、真菌、アレルギーなどで、普段は涙が眼球の表面をうるおしてゴミや老廃物を流し出してくれますが、疲れがたまって免疫力が落ちたり、涙の量が減ったりしているときに要注意です。治療法は、原因によって異なります。細菌性の結膜炎ならば、抗生剤の入った点眼薬（「クラビット点眼薬」など）を処方しています。

**●角膜炎**  
黒目の部分に起こる感染症で、結膜炎同様、ウイルス、細菌、真菌などが原因となります。角膜に傷がつくと痛みを感じるのが特徴です。

**●結膜下出血**  
感染症ではなく、結膜下の小さい血管が破れ出血し、白目部分がべったり赤く染まります。ビックリしますが、痛みはなく目が少しゴロゴロする程度です。出血は1～2週間で自然に吸収されるので放っておいても大丈夫です。

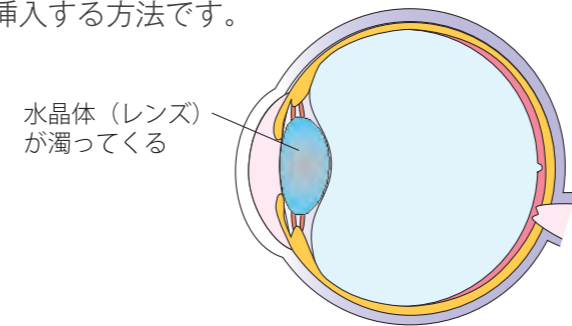


## 加齢とともにリスクが高くなる眼の病気

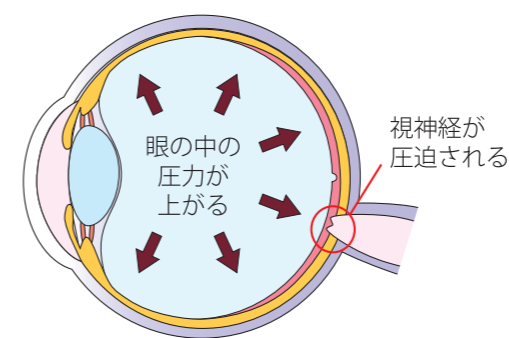
眼科で専門的に対応していただく病気です。

**●白内障**  
年齢とともに、「水晶体」のたんぱく質が変性し、次第に白く濁ってくる病気です。レンズの役割を果たす部分が濁るために、モノがかすんだりぼやけて見えるようになります。進行の早さには個人差がありますが、だれにでも起こる事象です。

「超音波水晶体乳化吸引術」と呼ばれる手術療法が一般的で、既に体験された方もいらっしゃると思います。これは眼球を切開して、水晶体の核と皮質を超音波で碎き、眼内レンズを挿入する方法です。

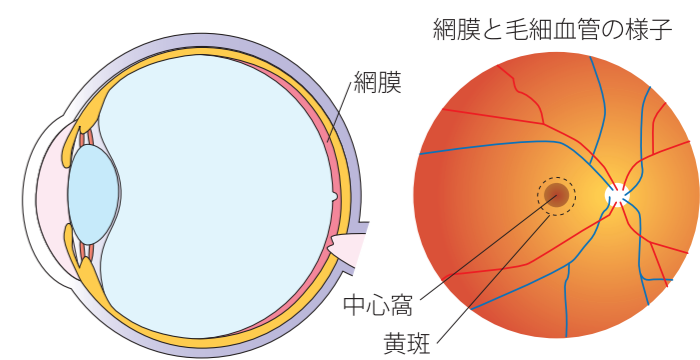


**●緑内障**  
眼圧が高くなることで視神経が圧迫され、視野の中に見えない部分が出てきます。初めのうちは見えない部分を両目で補足しあったりしているので、気付かないうちに進行することが多いですが、放置すると失明に至るので注意が必要です。



**●加齢黄斑変性症**  
「黄斑」は網膜の中心部にあり、モノを見るときに形、大きさ、色、立体感、距離などの光の情報を識別している最も重要な部分です。年齢とともに「網膜」の細胞に老廃物が蓄積し、この黄斑に異常が生じると、視力が低下したり、モノの見え方に支障が出たりします。

進行すると失明に至る病気で、欧米では途中失明原因の第1位、国内でも人口の高齢化と生活の欧米化で増えているそうです。



**●糖尿病性網膜症**  
網膜にはたくさんの毛細血管があります（上右の略図よりもっともっと綿密です）。糖尿病になると、糖が多く固まりやすい血液が、小さな血管を傷つけたり詰まらせたりしてしまいます。そのため、血液の流れが悪くなり、網膜の酸素や栄養素が不足し、視力に障害が出てきます。進行すると硝子体で大出血が起こり、失明に至ります。

## 目薬の種類

眼科に行くと、小さな目薬のボトルがたくさん並んだ標本がよく置いてありますね。目薬（点眼薬）には、ドライアイなどに使われる涙成分の薬、細菌や真菌などの病原体を抑える薬、アレルギーや炎症を抑える薬、眼圧を下げる薬などがあります。

(目薬の例)

涙と同じ成分の目薬です。 抗生剤は細菌感染に使われます。 ステロイド剤はアレルギーなどに使われます。

